



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち ～

vol.4

富士山を望み、日本三大美港のひとつに数えられる清水港。物流機能の中枢を担う新興津コンテナターミナルでは、現在、水深15m岸壁の拡張整備が進められている。

この日、ターミナルの対岸にある製作ヤードで行われていたのは、岸壁本体に使われるハイブリットケーソン2函の製作工事。約1年前に着手した工事は、いよいよ最終段階を迎え、コンクリートの打設が急ピッチで進められていた。

ケーソン1函の大きさは、縦20.4m×横24.5m×高さ

19.7m。広大なヤードに並べられた2函の巨大なケーソン。そのスケール感は、7階建てのマンション2棟に相当する。最終的にこれらのケーソンは、海底に設置され岸壁の一部として半永久的な構造物となる。

土木技術者として36年のキャリアを持つ北村拓也所長（監理技術者）は、自らの使命について、こう話してくれた。「自分たちが作るインフラは後世に残るもの。だからこそ、気を引き締めて、ちゃんとしたもの、いいものを作らなければならない」。



撮影/文：西村尚己(2025年2月26日～27日撮影)

工事名：令和5年度 清水港新興津岸壁(-15m)本体工事

発注者：国土交通省中部地方整備局

受注者：若築建設株式会社



<プロフィール>

西村尚己 / Naoki Nishimura

株式会社アフロのフォトグラファー（アフロスポーツ所属）。1994年、大阪大学大学院工学研究科修了後、運輸省（現国土交通省）入省。本省、北海道開発局、中部・近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港線でインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動。2016年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピックをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。